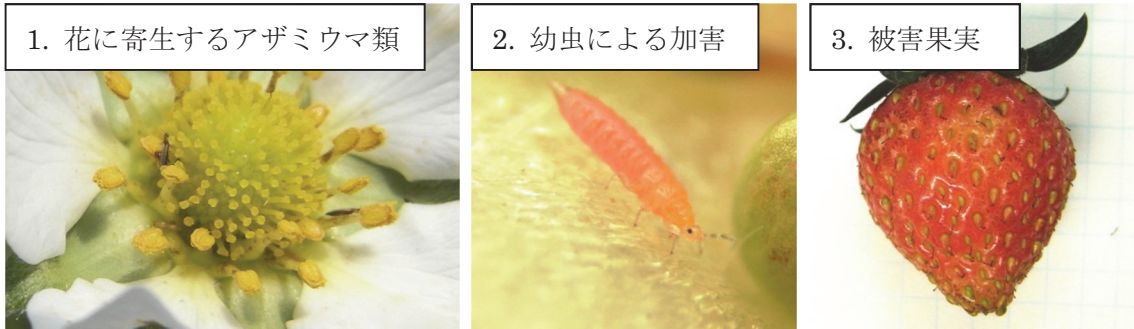


いちごのアザミウマ類

アザミウマ類はいちごの花に寄生し(1)、幼虫が果実を加害することで着色異常を引き起こし(2,3)、品質を低下させます。生態をよく知り、うまく防除することで、被害発生を防ぎましょう。

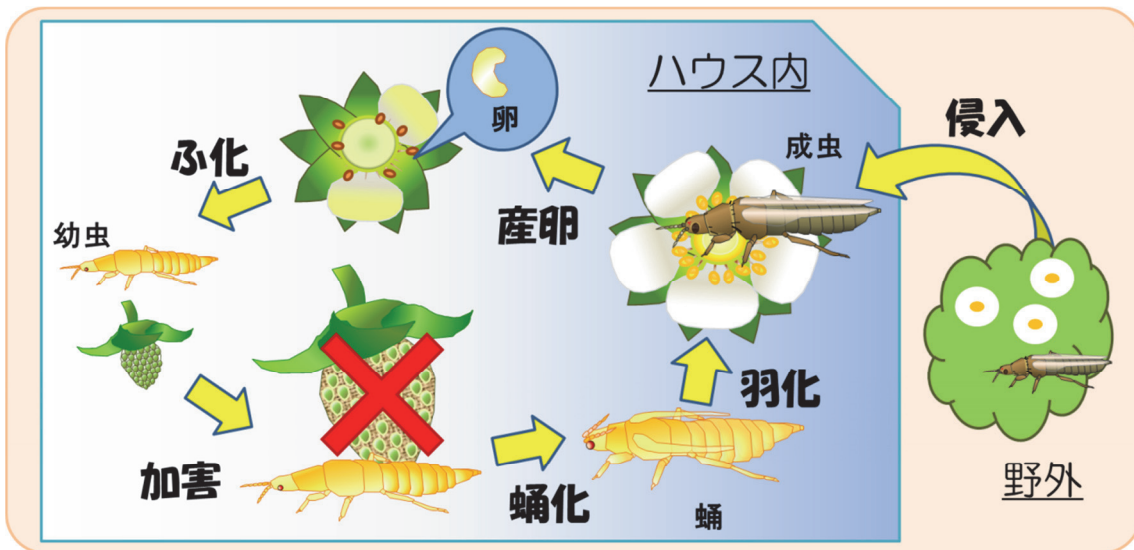


①アザミウマ類の生態

1) いちごを加害するアザミウマ類とは

アザミウマ類は、成虫が1~2mm程度の小さな昆虫です。いちごの花に飛来し、花粉を食べ、卵を産みつけます。ふ化した幼虫は、幼果の表面を加害しながら成長し、やがて地表や株元に下りて蛹になります。

ヒラズハナアザミウマの成長は、25℃恒温条件では卵から羽化まで10日程度と早く、温暖な時期には短期間で急増します。

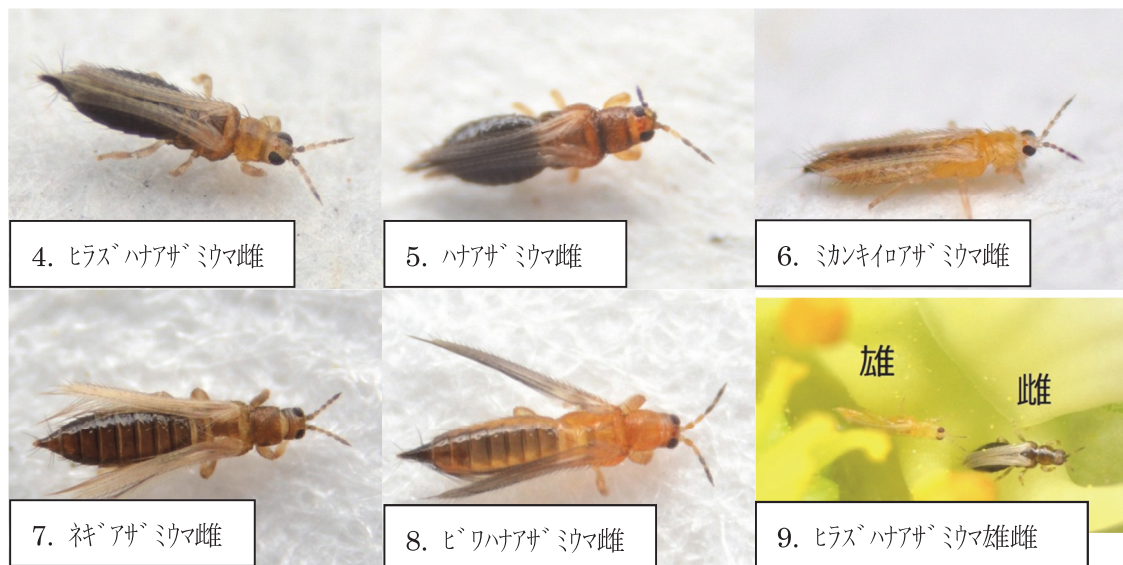


野外では10月まで活発に動き回るので、開花が早い作型ほど多く発生します。冬期には一時的に活動が鈍りますが、ハウス内ではだらだらと発生が続きます。

2～3 月ごろから活動が活発になり、再び被害が目立ちはじめます。4 月になると野外のアザミウマ類も活動を始め、断続的にハウスに飛び込んできます。

2) 果実を加害する種

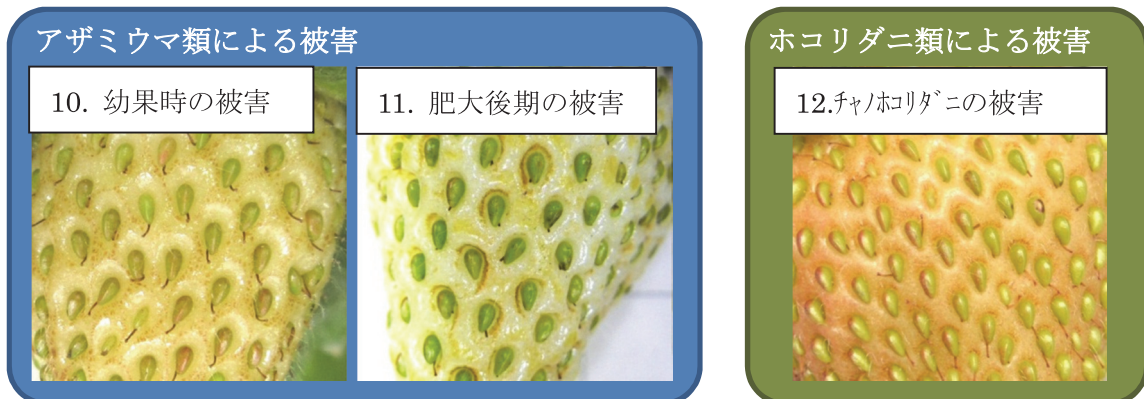
県内のいちごで最も問題となるのはヒラズハナアザミウマ(4)ですが、ハナアザミウマ(5)、ミカンキイロアザミウマ(6)、ネギアザミウマ(7)、ビワハナアザミウマ(8)なども発生します。一般に、雄は小型で淡い黄色をしています(9)。また、幼虫の体色はオレンジ色からオレンジがかったピンク色です。



3) 被害の特徴

大半の果実は幼果のうちに加害されるため、果実肥大後はそう果（種にみえる部分）の周囲を残して表面が褐変します(10)。発生が多いときには、幼虫が肥大後期の果実にも分散し、へた元やそう果の周囲を加害します(11)。

チャノホコリダニの被害にも似ていますが、果実全面が加害されることや(12)、葉の褐変や奇形も同時に発生するので区別できます。



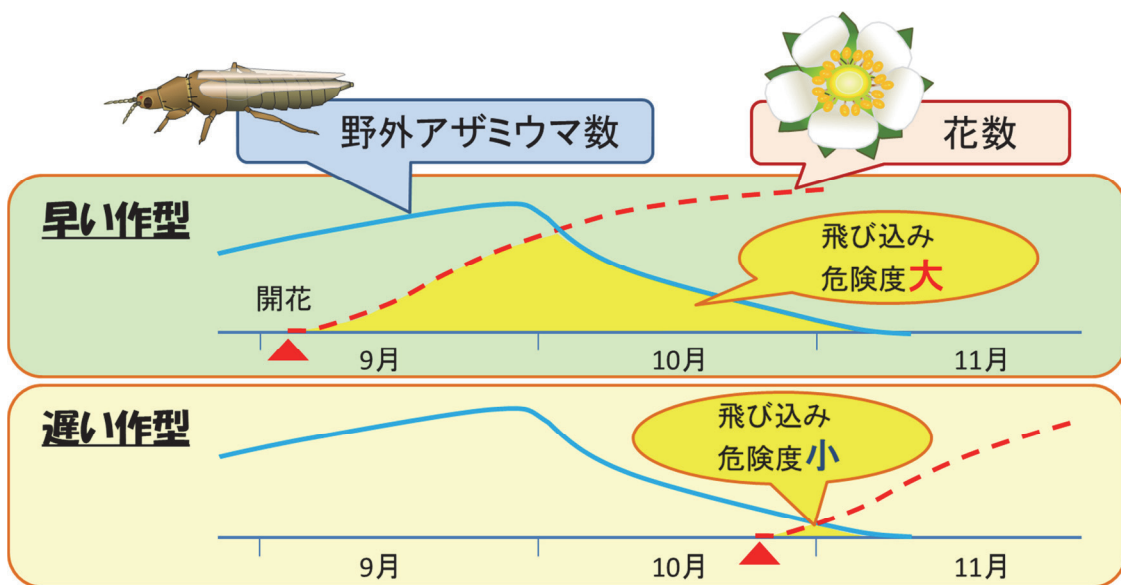
②防除対策

1) 発生を見極める！

- ①青色粘着板をほ場内に設置し、誘殺されるアザミウマ類を定期的に観察することで、飛び込みや発生量の推移を知ることができます。
- ②花を定期的に観察することで、飛び込んだ成虫を早期に発見できます。
- ③観察した花の1割以上にアザミウマ類がいる場合、速やかな防除が必要です。
- ④色付く前の果実は被害が見やすいので、被害発見の目安になります。

2) 注意が必要な時期は？

- ①開花から10月末までが飛び込みの要注意期間です。10月中旬までに開花が進んでいるほ場では、特に注意が必要です。
- ②秋に被害が発生したハウスでは、2月頃からの被害発生に注意しましょう。
- ③3月以降は短期間で急増するので、こまめに花や果実を観察しましょう。
- ④4月以降は飛び込みによる発生が続くので、定期的な防除が必要になります。



3) 薬剤防除のコツと注意点

- ・IGR 剤 (脱皮阻害剤) は、発生初期や飛び込みの無い11月～3月に有効です。ただし成虫には効果が無いので、多発生時には他の剤と組み合わせましょう。
- ・発生が多いときには、成虫にも有効な殺虫剤を使用しましょう。
- ・多発すると、薬剤のかかりにくい場所にいる卵や蛹が多くなるので、防除が難しくなります。5日程度間隔を空けて何度か薬剤散布しましょう。
- ・他害虫の防除に天敵を使用するときには、悪影響のある薬剤は避けましょう。

4) 薬剤以外の防除技術

- ・光反射資材が織り込まれた防虫ネットの開口部への展張や、光反射シートをハウス外に敷設して飛び込みを減らす。
- ・青色の粘着板や粘着テープを設置して捕殺する。
- ・微生物農薬を使用する（一部の殺菌剤とは併用不可）。
- ・捕食性天敵を放飼する（一部の薬剤とは併用不可、または注意が必要）。

※1つの対策だけで完全な防除はできません。必ず、農薬も含めた複数の対策を組み合わせて防除しましょう。

アザミウマ類による葉の被害

- ・チャノキイロアザミウマは親株、育苗期に発生がみられ、被害葉は葉脈沿いおよび葉柄が褐変し、ひどいときには葉が萎縮します(13)。一方、似た症状をひき起こすチャノホコリダニは、冬期の本ぽでも被害が発生します。
- ・クロトンアザミウマは葉裏に白く色の抜けた食害痕を残します(14)。
- ・ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなどは、果実だけでなく葉も加害し、褐色または銀白色の小斑点を生じることがあります(15)。

13. チャノキイロアザミウマ被害



14. クロトンアザミウマ被害



15. ネギアザミウマ被害



天敵アザミウマ

- ・アカメガシワクダアザミウマは、害虫種のアザミウマ類を捕食する天敵です。特に、夏秋栽培でよく見られます。



16. 成虫



17. 幼虫

[発行] 栃木県農業環境指導センター

〒321-0974 宇都宮市竹林町 1030-2 河内庁舎別館 3 階

Tel 028-626-3086 Fax 028-626-3012

ホームページ <http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>